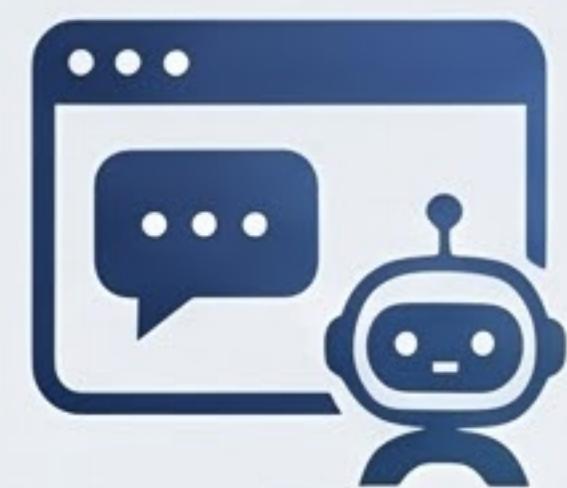


# GPT-5.5：次世代エージェントAIがもたらす知財実務の変革

## GPT-5.5の本質：エージェントAIへの進化



### DEFINITION

エージェントAI・コンピューティング  
「チャットボット」から「自律的実行主体」へ

ユーザーの意図を読み取り、PC操作、ソフトウェア準備、オンライン閲覧などを代行してタスクを完結する自律的アーキテクチャ。



### KEY\_FINDING

曖昧さへの耐性と自己完結能力

「整理されていないタスク」を自ら計画・実行  
詳細な指示がなくても、モデルが自ら実行計画を立案し、制約条件を自己調整しながら最終的なアウトプットまで調整可能。



### COMPARISON

2つのバリエーション展開  
「GPT-5.5」と専門強化の「Pro」

日常業務やコーディングには標準版、知財やデータサイエンスなどの専門領域が求められる機能には価値能力を強化したProモデル（コストは約9割）を構築。

## 知財実務へのインパクト：次世代エージェントAIサイクル



### 先行技術調査

### PROCESS\_STEP

ツールチェーンの最適化  
「API呼び出しを45%削減しつつ完遂率を向上  
文書の検索、発明性判断、リスク評価、修正履歴表示  
といった一連の業務プロセス、無駄なループを省  
き最短ルートで実行。

## 圧倒的なベンチマーク性能



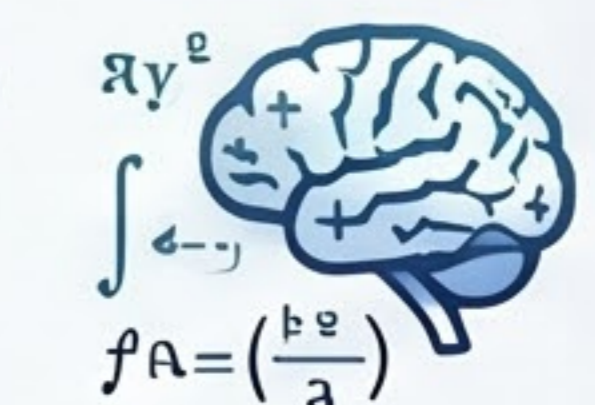
### STATISTIC

複合ベンチマークスコア：98.2  
「主要競合モデルを凌駕する汎用能力  
Claude Opus 4.7 (95.1) や Gemini 3.1 Pro (94.7) を引き越し、再びOpenAIがリードを奪還。



### STATISTIC

Terminal-Bench 2.0：82.7%  
「複雑な自律的タスクの達成率が大幅向上  
コマンドラインを用いた自律的操作性にない  
て、創発性 (76.1%) から同様の進化を達成。



### EXAMPLE

FrontierMath Tier 4：39.6%  
「ポストドクレベルの難問解決と新定種の証明への貢献  
組み合わせ数学の「ラムゼー数」に関する新定種の  
証明に貢献するなど、単なる検索ツールを超えた  
「発明研究」の成果へ。

## 先行技術調査における「AI vs AI」の構図



### 出願人AI

### KEY\_FINDING

セマンティック検索の進化  
用語の一端ではなく「技術的概念」で検索  
機械的な技術的ニュアンス (例：特定の物質を  
抽出しないプロセス) を柔軟に補完し、真に  
関連性の高い文脈をピンポイントで抽出。

### 審査当局 (USPTO/JPO) AI

### SUPPORTING\_FACT

審査当局 (USPTO/JPO) のAI実装  
「国家レベルで進む審査プロセスの自動化  
審査官が強力なAIで補った先行技術を開  
発しているため、出願人側も同等以上のAI  
で高度なスクリーニングを行う必要性。

## リスク評価

### DEFINITION

専門家の役割の再定義  
「テキスト化代行」から  
「戦略的監査」へ  
専門家の価値は、AI生成物の法的妥当性  
の監査、回應設計の予測、事業戦略に立脚し  
たポートフォリオ情報へとシフトする。

## クレーム作成

### KEY\_FINDING

R&D部門による積極活用  
「技術的実用化」における  
際限コストの削減  
エンジニア自身がAIを用いて  
技術課題や特許課題の  
範囲テラフトを作成する  
なり、特許事務への協働  
プロセスが浸透。

## 法的フレームワークとコンプライアンス (2025-2026年)

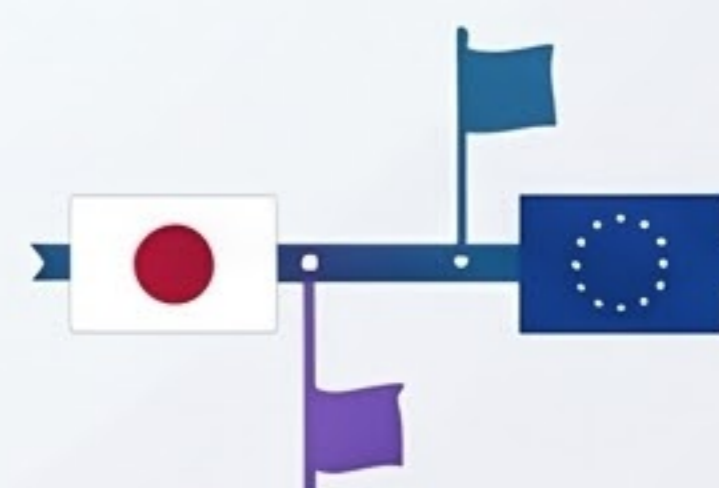


### SUPPORTING\_FACT

発明者性に関する司法判断の収束  
「発明者は直覚人に関する」という最終確定  
米国最高裁や欧州連合の判決により、AIは発明  
者・著作者になれないが、人間が「価値」に関  
与すればAIの交差を受けても権利主張が可能。

## 司法・行政ガイダンスの変化による実務への影響

項目	旧来の強い・判断	2025-2026年の最新コンセンサス
1 発明者性の認定	人間とAIの貢献度を比較評価しようとした	AIは人ではないため共同発明者になり得ない (Panno基準の不適用)
2 権利取得の要件	AI生成物の著作権・特許性に遑論があった	自然人による「着想 (Conception)」と「顕明の貢献」が絶対条件
3 専門家の対価	タイムチャージ (作業時間に基づく請求)	価値ベースの報酬 (AFA：代替的な報酬体系) への移行



### TIMELINE\_EVENT

EU AI法 (AI Act) の全面適用  
2026年8月2日、ほぼ全ての規定が本格適用  
汎用AIモデルへの適用性要件中リスクシステム  
への義務化が開始され、企業の知財・データ  
戦場に大きな影響を及ぼす。